

Mon Nara



Numéro279 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 JAN.-FEV. 2017 1-2 月合併号

2017 年度総会開催—「菜宴」にて

2月11日(土曜日・祝)、「菜宴」(奈良市小西町)にて奈良日仏協会の2017年度総会が開かれました。会長挨拶に始まり出席者19名、委任状59名(会員総数96名)で総会成立を確認。三野会長を議長に議事が進められ、次の議案が承認されました。1) 2016年度活動報告、2) 2016年度決算報告・会計監査報告、3) 役員選出、4) 2017年度活動計画、5) 2017年度予算。

2016年度の決算は、昨年度に続いて三野会長の率先により事務局で経費の削減に努め、実質的には約9万円の黒字でしたが、2019年度に予定されている当協会創立25周年記念行事準備金として10万円を計上することになりました(総会後すみやかに銀行に定期口座を開設)。その結果、繰越残高は約135万7千円(＋定期預金10万円)となりました。決算は監査報告と合わせて承認されました。

役員選出では理事・監事候補が原案通り承認されました。濱恵介氏、中浦東洋司氏、高島眞貴子氏は退任、2017年度の役員は以下の通りです。会長：三野博司、副会長：ジャメ・オリヴィエ、野島正興、事務局長：杉谷健治(新任)、事務次長：浅井直子(新任)、会計：井田眞弓、理事：南城 守、藤村久美子、中辻純子、高松洋子(新任)、監事：三木正義の各氏。

新年度の活動計画では、2016年度に続いて、来日フランス人やフランコフォンの留学生を迎えての文化交流活動を積極的に進め、再開して3年目となるフランス語ガイドクラブを、継続発展させることを目指します。予算案は文化交流、ガイドクラブ、会員同士の懇親に重点をおいて立てました。25周年記念行事準備積立金に5万円をあてています。なお、前年度決算と今年度の予算の詳細を、別紙(折込)でお知らせしますので、ご参照ください。

総会の開始が遅れたために、出席した役員以外の会員の自己紹介が少し慌ただしくなりましたが、初めて或いは久しぶりに参加された会員の方には、当協会の全体的な活動を理解していただける機会になったかと思われます。また、総会には参加できずとも委任状に添えてくださった会員の皆様のお言葉、ありがたく承りました。(事務局)

総会後の懇親会

三野会長の開会の挨拶に続いて、大内隆一会員と音楽仲間の鳥丸安雄さん直子さんご夫妻の「フランス弦楽トリオ」による演奏から始まりました。「弦楽三重奏によるフランス音楽」と題したプログラムに沿って、17世紀のマラン・マレからクーラン、サン＝サーンス、マスネ、フォーレを経てサティに至るまで、フランスを代表する作曲家の曲を年代順に6曲、そしてアンコールにはシャンソンの名曲「リラの花咲く頃」を演奏してくださいました。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの3つの弦楽器から醸し出される音には木のぬくもりがこもっていて、

《三野会長 2017 年度あいさつ》

早くも会長として4回目の新年あいさつとなります。初回は新任会長として抱負を述べ、2、3回目はパリを襲ったテロについて触れました。そして、2016年を振り返ったときに思い出されるフランスの事件といえ、やはり7月14日ニースのテロがあげられます。7月18日、奈良を訪問された駐日フランス大使ご夫妻を奈良ホテルにお迎えしたとき、こちらから最初に申し上げたのはテロ犠牲者ご家族へのお見舞いのことばでした。

2017年4月、フランスは大統領選挙を控えています。昨年のイギリス、アメリカに見られた、グローバリゼーションへの反発としての「自国優先」気分が、どのように選挙結果に反映するのか。このような時代であるからこそ、私たちは自国優先を越えて、国際文化交流の小さな火を絶やしてはならないと考えます。奈良日仏協会は役員の顔ぶれも一部が変わり、新たな陣容で活動を続けます。みなさまのご支援をお願い申し上げます。



《事務局からのお願い》これから2017年度の会員名簿を作成し、Mon Nara 3-4月号に同封いたしますので、記載事項に変更のある方は3月31日までに、下記のいずれかの方法で変更内容をお届けください。

1) Mail : nara.afj@gmail.com 2) FAX : 0742-62-1741 3) TEL : 0743-74-0371 4) 郵送 : 〒630-0244 生駒市東松ヶ丘1-53 浅井方 奈良日仏協会。なお、お名前以外の掲載事項は自由に選択することができますので、掲載項目を変更したい方はその旨ご連絡お願い致します。新入会員の方にはこちらから希望をお聞き致します。



間近で聴いていると全身に直接ふれてくるような心地よさがありました。とても贅沢な場にいることに、静かな感激がありました。

音楽の後には、坂本前会長による「À votre santé !」の高らかな乾杯の発声があり、菜宴の美味しい料理とワインをいただきました。参加者同士で歓談がはずみ、様々な再会と出会いの場となったようです。フランス人ゲストのピエール・レニエさん、ジャンヌ・オストリーさん、エリザベット佐野さんからは、フランス語に日本語をまじえての自己紹介、会員有志には個人活動についてPRしていただきました。ビンゴゲームでは、南城理事から提供された美術講演会の招待券、三野会長からの絵葉書セット、菜宴

の久保田シェフからのボトルワイン、理事有志が用意した景品等、懇親会の参加者全員（32名：会員24、一般4、招待4）に何か当たりました。最後は音楽ゲストの弦楽トリオの伴奏で「早春賦」を全員で合唱し、会場が一体となって素晴らしいハーモニーが響きわたりました。「春は名のみ風の寒さや」の歌詞にある通りの早春の一日を締めくくり、ワイン代を一部寄付して下さった濱理事の言葉で閉会しました。

新任理事の紹介

新参者ですが、財団事務局長の経験があるということで、事務局長に就任することになりました。定年して早や7年、仕事の勘も薄れ、学生時代にはフランス語を多少かじったとはいえ、フランス語会話も覚束ず、不安な面も多々ありますが、三野会長の「世界が自国の殻に閉じこもるようになっていく時こそ、ささやかでも我々のような活動が大切になる」という総会挨拶の言葉を胸に、協会の活動を円滑に進めるべく努力したいと思います。個人的には、若い頃に憧れたフランスへの想いが近年よみがえり、また長年住み慣れた奈良への愛着が強まっていて、同好の皆さんと楽しく語らうのを楽しみにしています。（杉谷健治）



私は今年1月に入会いたしました。そのきっかけは、昨年10月のヴェルサイユ市長ご一行が奈良を訪問された時に参加させていただいた夕食会に遡ります。その時、三野会長はじめ協会の方々のご活躍を目の当たりにし、特に皆様の流暢なフランス語に魅了され、三野会長にフランス語を習いたいと思い、入会させていただきました。皆様、どうかよろしくお願い致します。また、新人ですが、会の諸事情から理事に選出され、会計を担当させていただくことになりました。ご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。（高松洋子）



音楽演奏者「フランス弦楽トリオ」からのメッセージ



年末に奈良日仏協会の2017年度総会懇親会でのフランス音楽の演奏を依頼され、すぐ室内楽仲間の鳥丸安雄さん（ヴァイオリン）、直子さん（チェロ）ご夫妻にお願いして、「フランス弦楽トリオ」を結成しました。鳥丸さんのお話にありましたように、選曲、編曲、アンサンブルなど難しかったですが、コンサートでは我々日曜音楽家の演奏に、みなさま温かく耳を傾けて下さりありがとうございました。懇親会でのおしゃべりや「早春賦」の合唱で、音楽が大好きな方、プロの音楽家、またオペラ歌手かと思われる声量をお持ちの方など多くいらっしやることを知りました。私たちもこの機会にあらためてフランスの音楽文化の個性と豊かさを知ることができ、いろいろな作曲家の作品を発掘

する楽しみができました。ご参考に、鳥丸さんの人気ブログと、コンサートマスターを務められています芦屋室内合奏団のホームページをご紹介します。それぞれ「jackのヴァイオリン練習室」、「芦屋室内合奏団」で検索できます。（大内隆一）

フランス人ゲストからのメッセージ

◆◆◆ La réunion a bien commencé avec le petit moment musical qui a apporté une belle détente. Le

chaleureux contact avec les participants a permis des échanges enrichissants. J'étais très contente aussi d'avoir pu rencontrer deux de mes compatriotes. Les mets et surtout les vins étaient délicieux, ce qui a aidé à créer une belle ambiance. Le jeu de bingo nous a donné un petit moment d'excitation très intéressant. Le temps a passé très très vite et je garde un très bon souvenir de cette agréable soirée. Un grand merci à tous!

(Elisabeth Sano)

会は、音楽のひとつから始まり、快い気晴らしをもたらしてくれました。参加者のみなさんとの心あたたまる触れ合いのおかげで、ゆたかな交流ができました。私にとっては二人の同国人との出会いも、とても嬉しいことでした。お料理と特にワインが美味しくて、楽しい雰囲気を作る助けをしてくれました。ビンゴゲームは、つかの間のとても面白い興奮のひとつでした。時間がほんとうにとっても早く過ぎて、この心地よいパーティーに、楽しい思い出をもちました。みなさん全員に厚くお礼を申し上げます！

(佐野エリザベット)

◆◆◆Merci ! Cette année encore, j'ai été très heureux de participer à cette réunion annuelle de l'AFJN et je vous suis très reconnaissant de m'y avoir invité. À chaque fois, je suis heureux de revoir ceux d'entre vous que je connais déjà et de faire de nouvelles rencontres. L'ambiance est toujours très amicale et c'est bien agréable de pouvoir discuter un peu en français ou en japonais avec tout le monde. J'espère vous revoir lors de notre troisième excursion automnale qui sera sans aucun doute aussi l'occasion d'échanges très sympathiques !

(Pierre Régner)

ありがとうございます！今年もまた奈良日仏協会のこの一年にいちどの集まりに参加できてとても嬉しく思います。ご招待くださり感謝いたします。毎回ここで私の知り合いの方たちと再会し、新しい出会いができるのは嬉しいかぎりです。いつも友好的な雰囲気の中でフランス語や日本語でみなさんと少し議論できてとても楽しいです。この秋で3回目となります(ガイドクラブの)散策の時に、みなさんと再会できることを楽しみにしています。今年もとても楽しい交流の機会になることでしょう！

(ピエール・レニエ)

◆◆◆J'ai été particulièrement heureuse d'avoir été invitée à la dernière réunion de l'association franco-japonaise de Nara. Avoir la chance d'assister à un concert de qualité en présence d'un public fin et cultivé tout en dégustant de tels mets est un plaisir que je vous remercie vivement de m'avoir fait partager, et que je serais enchantée de renouveler.

(Jeanne Austry)

先日の奈良日仏協会の集まりに招待していただいて、とても嬉しかったです。上質のコンサートに、洗練されて教養あるみなさまと一緒に参加し、あのように美味しい料理を賞味する機会を得て、喜びを分かちあえたことに大いに感謝するとともに、気持ちを新たにすることを嬉しく思います。

(ジャンヌ・オストリー)

三重日仏協会主催「名作の中のフランス料理」参加報告

2016年12月3日、津駅近くのフランス料理店ビストロ「ラ・フルール」にて、「名作の中のフランス料理」と題した昼食会が開催されました。バルザック研究者の柏木隆雄先生(大阪大学名誉教授)が、フランス料理の歴史とラルースの美食辞典監修者ロベール・クルティエヌの著書『食卓のバルザック』についてお話しされ、この本を日頃から愛読されているという竹谷直記シェフが、右のチラシの素晴らしいメニューの料理を、腕によりをかけて用意してくださいました。オードブルからデザートに至るまで、次から次へとくり出される美味しい料理と極上のワインの数々。新しい料理が紹介されるたびに、参加者一同から感嘆の声が上がり、一皿一皿を心ゆくまで堪能することができました。

執筆中の小説が完成するやレストランにとびこんで、「オスタンドの牡蠣を百個もってこい！」と叫んだというバルザックの逸話のある「牡蠣」、彼の生まれ故郷トゥールの名物料理「豚のリエット」や「ブーダン・ブラン」、そしてクルティエヌが『幻滅』の一場面からヒントを得て考案したという「鰻のゴランフロ風」や『いとこボンス』に由来する「牛肉のミロトン」(松阪牛を一頭買いしているこの店ならではの一品となりました!)等々。それらを口にした時の幸福な記憶はいまも鮮明です。

じっさい本当にめったにないような贅沢な食事会でしたが、何よりも素晴らしいと感じられたのは、こうした会を企画・準備してくださった三重日仏協会の矢野理事をはじめとする会員のみなさまの暖かいおもてなしです。講師の柏木先生と竹谷シェフの才能を引き出して、金沢・松本・奈良・大阪方面からも駆けつけた参加者を歓待してくださいました。和やかな雰囲気になり満ち満ちて、その場にいた全員が「あれは至福のひとつだった…」と、今もつぶやいているような気がします。(浅井直子)

名作の中のフランス料理

Goûter la cuisine dans le célèbre roman français

来る12月3日(土) ビストロ「ラ・フルール」にて「名作の中のフランス料理」と題して、昼食とワインを楽しむ会を開催します。今回はフランス文学を代表する作家バルザックの作品に登場するフランス料理を再現し、食事をしながら作品に触れる会です。当日は柏木隆雄先生(大阪大学名誉教授、日本仏文学会会長)をゲストにお招きし、作品と料理についての解説をいただきます。フランス料理の歴史や1800年代当時の時代背景などを食事とともに楽しみたいだけです。

日時: 12月3日(土) 11:30~

場所: ビストロ ラ・フルール

定員: 20名

時間: アパリティフ 11:30~ 食事 12:00開始

会費: 5000円(税込み) 飲み物・ワイン代込

※ワインを飲まない方は4000円(税込み)です

<アパリティフ> バルザック生誕の地・トゥール地方のお料理でアパリティフを

生牡蠣 "Huitres"
ムール貝のムクロワ "Mouclade"
ポークリエット "Rillettes de porc"
ブーダン・ブラン "Boudin blanc"

バルザック『幻滅』第3部(1843)より "Illusions perdues"より
<魚料理> 鰻のクレー 鰻のゴランフロ "Anguille à la gorenflot"

バルザック『従兄ボンス』(1847) "Le cousin Pons ou les deux musiciens"より
<肉料理> 牛肉 ミロトン "Miroton"

<デザート> サヴァラン "Savarin"

主催 三重日仏協会
問合せ先 ビストロ ラ・フルール Tel 059-228-0333 (青木・安藤)
三重県津市羽所町321-3 青木ビル1F

フランス文学の庭から <49>

三野博司 (会長)

名句の花束

Carmen sera toujours libre.(2)

カルメンはいつだって自由なのさ。

(プロスペル・メリメ『カルメン』1845年)



ビゼーの「カルメン」は、メリメの小説発表から30年後、1875年、オペラ・コミック座で上演されました。これは転換の年でもありました。このときからオペラ・コミックのレパートリーが拡大します。パリ・コミューンで焼失したパリにある別の劇場、テアトル・リリックのレパートリーを取り込んでいくのです。

オペラ化にあたって、原作の小説に台本作者がほどこした改変に注目する必要があります。悲劇的な枠組みを保持しながら、オペラ・コミックの伝統を尊重するため、ミカエラが付け加えられました。このミカエラ、どんな演出家の手になる舞台で見ても、服装はいつも青いスカートで、おさげ髪なのです。それもそのはず、メリメの原作では「青いスカートをはいて肩のうゑに編んだおさげ髪をたらし娘」とだけあり、名もない娘です。このわずか一行にも足りない記述から、台本作家は、外見だけは原作に忠実に、ホセを恋い慕うミカエラという少女像を生み出し、彼女に大きな役割を与えました。それに、カルメンがメゾ・ソプラノの奔放自在な女性ですから、これと対照的な清純派のソプラノを配するのは当然でもあるでしょう。

またドン・ホセのテノールに対して、やはりバランスを取るべくバリトンが必要です。原作では最後に少し登場するだけの闘牛士ですが、これがオペラではエスカミーリョとなって、ホセの対抗馬として重要な役割を担うことになります。

ビゼーの音楽は、だれもがそのメロディやリズムが自然と頭のなかに湧き上がってくるほど有名なものになっています。作曲家は、スペイン音楽を取り入れ様式化しただけでなく、運命を表わすモティーフによってドラマに深い統一性を与えています。開幕からあらわれる死のモティーフがところどころで繰り返されて、最後のカルメンの死の場面で最高潮に達します。オペラの幕切れは悲劇です。これはオペラ・コミックとしては異例のことでした。

名句として掲げたのは、カルメンがホセに殺されることを受け入れる場面のセリフです。

Comme mon rom, tu as le droit de tuer ta romi, mais Carmen sera toujours libre. Calli elle eat né, calli elle mourra.

あんた、あたしのロム（亭主）だもの、自分のロミ（女房）を殺す権利はあるよ、だけどカルメンはいつだって自由なのさ。カリ（ジプシー）に生まれついた女なんだ、カリ（ジプシー）のまんま死んでってやるよ。

最後までジプシーとしてのアイデンティティを守り、自由であろうとする彼女の生き方がここに集約されています。フランス文学にあらわれるジプシーは、すでに「名句の花束」第33～35回でとりあげたユゴー『ノートル＝ダム・ド・パリ』のヒロイン、エスメラルダがいます。ただ、彼女の場合は、実は赤子のときにジプシーにさらわれて育てられた娘であったという落ちがついています。

カルメンというのは、マリアと並んでスペイン人に多い名前ようです。かつてクレルモン＝フェラン大学の博士課程に籍をおいていたとき、同時に外国人向けの語学学校の講座にも短期間出席していました。さまざまな



国から来た若者たちと出会いましたが、そのなかにカルメンがいました。オペラのヒロインのイメージが強烈だったので、名前から連想する印象とはまるで違って、はじめは少しとまどいました。聡明で落ち着いた性格の女子学生でした。ただし、フランス語を話すとき、スペイン語式を持ち込む癖がありました。母音にはさまれたsを「ス」と発音するので、彼女が話すとき、Vous avez も、Vous savez も同じく「ヴサヴェ」となるので、区別がつかず面食らいました。

20 世紀の東方からやってきた 14 世紀のトゥルバドゥールたち Des troubadours du 14e siècle venus de l'Orient du 20e siècle

坂本 利文（さかもと としふみ）

今から 40 数年前、1974 年の 2 月に、私は当時日本で唯一のプロの古楽合奏団「ダンスリー・ルネサンス合奏団」に入団しました。これが私とフランスとの関係の始まりでした。合奏団の創設者でありリーダーの岡本一郎氏の、奥様がディジョン出身のフランス人だったのです。週 2 回の練習の合間に交わされるフランス語の美しい響きや、昼食や夕食で振舞われるブルゴーニュの美味しい家庭料理はフランスへの憧れを高める大きな要因と成りました。その想いは早くもその年の 5 月に「ダンスリー」のフランス演奏旅行という形で実現する事に成りました。渡仏メンバーの一員に選ばれた私は 5 月 28 日にフランスに向けて出発しました。この演奏旅行ではディジョンの奥様の実家を拠点に、ブルゴーニュ地方で 10 回の演奏会を行いました。

最初の演奏会の舞台は元ブルゴーニュ公爵の専用ワイン醸造所だったというボースのワイン博物館。当時の雰囲気が残る会場での演奏に私達自身も感動を覚えたものです。ただ、どの曲もやたらとテンポが速かったのはボースへ行く途中に立ち寄ったパリ管弦楽団のフルーティスト、M・デヴォスト氏（フランスツアーを後援してくれた人）の家で頂いたワインが原因だった様で、今でも団員の語り草になっています。因みにディジョンとボース間の街道沿いには「ロマネコンティ」や「ジュヴレーシャンベルタン」など、世界に名だたるブルゴーニュワインの醸造所があります。この他「永遠の丘」とも呼ばれるヴェズレーでの演奏会も忘れられないものでした。会場は丘の頂上に建つ聖マドレーヌ大聖堂で、マグダラのマリアの聖遺物が納められていた事から古来より多くの巡礼者が訪れた教会です。この大聖堂の内陣はあまりにも大きく、演奏が二重に聞こえる程のエコーが生じたので、結局教会前陣の有名なロマネスクのタンパンを背にして演奏する事になりました。音響が良くなったのは勿論ですが、大聖堂の壮麗な内陣も背景となったこの演奏会の様子は、地元の新聞に「20 世紀の東洋から来た 14 世紀のトゥルバドゥール」とのキャッチフレーズで取り上げられました。この後 8 回行ったブルゴーニュ円での演奏会も大好評で、次のシーズンの演奏会の申し込みが 45 件にも上りました。



フラヴィニーの教会前にて

この年のツアーでは特にフラヴィニーでの出来事が印象に残っています。前年の演奏会を聴いて私たちのファンに成ったこの町の神父さんが、日曜日のミサで演奏して欲しいと頼んできたのです。宗教音楽を専門にしているなら兎も角、世俗音楽をレパートリーとしている我々にとって、本物のミサに演奏で参加出来たのは、貴重な経験でした。この町の教会には後日譚があります。2000 年に封切られた J. ビノシュ主演の映画「ショコラ」の舞台となったのがこの町で、教会でのシーンも撮影されています。ツアーの時の写真と、映画の DVD を見比べると、当時の事が懐かしく思い出されます。この年はこの他、北はブルターニュから西はアキテーヌ、南はトゥルバドゥールの故郷ラングドックまで演奏会は 28 回を数え、車で走った総距離は最終的に一万キロ以上に及びました。この後、1977、1978、1981、1992 年と 4 回のフランス演奏旅行に参加し、それまでのツアーを含めるとほぼフランス全土で演奏会をした事になりました。サントのローマ時代の闘技場で、コメディサンテチエンヌによる「ハムレット」の劇音楽を担当した事や、「フランスの庭」と呼ばれるロワール川流域の、アンボワーズやショーモン等ルネサンスの古城でのコンサート、アンリ四世が生まれた町ポーでの公演等、紹介したい演奏会が沢山ありますがそれは又、別の機会に譲りたいと思います。

（写真：新聞記事とフラヴィニーは右から 3 人目、ヴェズレーは右から 2 人目が筆者）



ヴェズレーの聖マドレーヌ大聖堂前陣

第 133 回 フランス・アラカルト (1/13) 参加報告

1 月 13 日に開催された「ベリー地方のジョルジュ・サンド」に参加しました。講師は奈良女子大学教授の高岡尚子先生です。サンドが居を構え、その多くの作品の舞台となったフランス中部ベリー地方の紹介、サンドの生立ちから自立までの経緯、サンドの作品の紹介などで構成された 2 時間でした。

印象に残ったのは当時の社会（19 世紀）で女性として、女性作家として自立する困難さです。当時、女性には財産管理権がなく、貴族だった父から引き継いだ地所にもかかわらず、結婚後は夫が管理することになってしまったこと。処女作の『アンディアナ』を発表した時に、ジョルジュ・サンドという筆名から、男性にしては女性の心理が良く描けていると評価されたものの、女性であるとわかった途端に掌を返したように批判されたことなど。困難な状況の中で、サンドが小説を書くことにどのような意味を見出し

ていたのか、いかにして作家になっていったのか、これまで気づかなかった視点から考えてみたいと思えました。

最後にサンドの作品の紹介として『ヴァランティーン』と『愛の妖精』の一部を会員の長谷川明子さんに朗読していただきました。格調高いディクションが心に残り、文学作品を声に出して読むことの意味と心地良さをあらためて実感しました。約 2 時間という凝縮した時間の中に、新たな気づきや発見が他にも色々ありました。この会に参加して良かったです。（寒河江康夫）

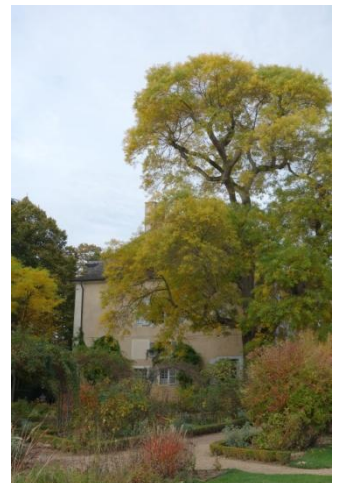


ジョルジュ・サンドといえば、子供向けの本で「愛の妖精」を読み、それが素敵で、そのバックにあるフランスの田園の描写も漠然と覚えている。

小公女セーラ、赤毛のアン、アルプスの少女ハイジ、その純真無垢の明るさで周囲の人達をあかろく変えてゆく、お日様の光のようなヒロインたち…。恋愛小説は、年令を問わず、結末がハッピーエンドでも、悲劇におわっても、人生の真理や人間のこころの深さを教えてくれる。「愛の妖精」は、そんないくつものバリエーションの最初の一つだった。その作者にも私はずいぶんあこがれたものだ。

ベリー地方の田舎の貴族の館の主人、男装の女流作家、一流の芸術家を集めたサロンを中心、ショパンとの恋。その外、奔放な遍歴を重ね、政治にも関わり、革命家マルクスやバクーニンとも交流があったらしい。サンドは複雑な好奇心の持ち主だったようだ。

高岡先生のお話で、豊富なスライドの画像とともに、彼女の住んだ田舎の自然がもっともその想像力の源泉であったことを教えてもらった。彼女がこの地方の民話を集めていたことも、初めて知った。ジョルジュ・サンドこそ、中部フランスの田園や森の精霊たちとの魂の交感に生きた永遠の少女ファデットなのだと、私は少女時代の感動をよみがえらせたのである。（泉悦子）



ぜひ、ベリー地方へ！

高岡 尚子（たかおか なおこ）

当日は大変寒い日でしたが、多くの方に参加いただき、充実した時間を過ごすことができました。ジョルジュ・サンドというと、何か聞き覚えはあるけれど、はて誰だったか？ という漠然とした印象しか与えない作家のようですが、この機会に、「へえ、男性名だけど、女性作家なのか」とか、ショパンやドラクロワなど、当代きって



の芸術家たちと深い交流があったことなどを、知っていただけたとしたら幸いです。ベリー地方は、単に作家の住まいがあったというだけでなく、多くの作品に題材を提供した空間であり、人々の交流と愛情を育んだ場所でした。次のフランス訪問の際にはぜひ、ノアンやブルジュなどを巡っていただければと思います。もちろん、実際に足を運ぶまでもなく、『魔の沼』や『愛の妖精』、『ジャンヌ』など田園を舞台とする小説の数々は、19 世紀からほとんど変わることのないこの地方の魅力を伝えてくれます。この機会にご一読いただければと思います。

Nos amis francophones à Nara (8) Jeanne Austrey (ジャンヌ・オストリー) さん

J'ai vu, dernièrement, un ensemble de dessins des huit vues des rivières Xiao et Xiang au musée national de Kyoto. Ils étaient exposés dans la section des estampes et des dessins médiévaux. La plupart d'entre eux, avec d'infimes variations d'œuvres à œuvres, représentaient des montagnes esquissées d'un trait d'encre, perdues dans la brume du papier, et où seul le flot d'une rivière, un temple sur l'un des sommets venaient rompre l'harmonie de ce ciel inexistant et de ce trait d'encre. Les admirant, je me souviens avoir pensé que, peut-être, et probablement sans réelles raisons objectives, c'était cela, Nara.

Il serait vain de soutenir que les paysages de Nara ressemblent à ces monts escarpés, perdus dans un univers fantasmagorique qui n'existe que dans les thèmes des 墨絵. Cependant, je ne peux m'empêcher de faire un rapprochement. C'est probablement que ces dessins m'évoquent un passé lointain qu'il me semble retrouver à Nara, derrière un des arbres de la 山辺の道, ou en passant sur le pont qui mène au 室生寺. Une forme de longévité débonnaire, qui s'illustre par ces nombreux 祭り, lorsque l'on se faufile entre deux stands pour se rapprocher des lumières du temple, sans perdre de vue la montagne, derrière, lien immuable entre passé rêvé et présent vécu, et que c'est cela, Nara, en un mot : 故郷.

最近、京都国立博物館で瀟湘八景（しょうしょう はっけい）の絵を見ました。それらの絵は中世の浮世絵とデッサンの部門に展示されていました。大部分の作品はひとつひとつとてもヴァリエティに富んでおり、墨の線で素描され霧の中に消えていく山々が描かれていました。そこでは、一本の川の流れとそれらの山のひとつの頂上にある寺院が、この非現実的な空と墨の線からなる均衡を変化させていました。わたしはそれらの絵に見とれながら、おそらく現実の客観的な理由もなく、それは奈良だと思ったことを覚えています。

奈良の風景が、「墨絵」の主題の中にしか存在しない夢想的な宇宙の中に消えてゆくあの切り立った山々に似ている、などと主張するには無理があるかもしれません。それでもわたしは比較しないではられません。おそらくそれらの絵が、「山の辺の道」にある一本の木の後や、あるいはまた「室生寺」に続く橋を渡るときに、奈良で見たような気がする遠い過去を思い起こさせるからだだと思います。長い歴史を持ちながらも人々に親しまれている形があり、多くの祭がそれを表わしていますが、夢の中の過去とこの現在をつなぐ不易の絆である背後の山を見失うことなく、二列に並ぶ屋台のあいだを縫うように寺の灯火へと近づく、とそのとき、それが奈良だと気づきます、ひとこと言えば「故郷」なのです。



瀟湘八景図の一例

フランス語で読む日本古典

中浦 東洋司

君がため春の野に出て若菜つむわが衣手に雪はふりつつ

光孝天皇 出典：古今集（春上）

（口語訳）貴女にさしあげようとして春の野で若菜を摘んでいると、私の袖に小雪がしきりに降りかかってくるのですが、これに負けずに精一杯摘みたく思います。



写真：奈良公園の雪消の沢

この歌は平安時代が始まってほぼ50年後に詠まれました。この歌の本歌は万葉集巻10にある「君がため山田の沢にゑぐ[水草]摘むと雪消の水に裳の裾ぬれぬ」とされています。意味からすれば天皇が皇子時代に見えませんが、むしろ、そんな具体的な事象ではなく、当時宮中で早春の寒さに耐えてた七種のハーブを食して邪気払いとする儀式でふと思いつき、観念的に詠まれたものと解されています。この行事は現在の「七草かゆ」につながるものです。

Quand pour vous ma chérie
par la lande printanière
cueillais jeunes herbes
sur la manche de ma robe
la neige encore tombait
(Empereur Kōkō)

光孝天皇（830～887年）

仁明天皇の第三子、長らく臣下にあったが前任の陽成天皇の辞任を受けて55歳で即位。その温厚篤実な人柄を買われて時の実力者であった藤原基経が指名したもの。政務は着実であると同時に日本史、漢文、和歌などの文芸に通じ、当時の「六歌仙」の人たちとも親しく、和歌の興隆に尽力されたが、在位3年余りで崩御（57歳）。

フランス・ワインの紹介 (6) 貴腐ワイン「シャトー・ルピアク・ゴードイエ」

今回は最終回ということで、食後に楽しむデザートワイン、貴腐ワインについてお話しさせていただきます。お食事を堪能した後、濃密で濃厚感溢れる独特の風味を持つ貴腐ワインは、ワイン愛好家ならずとも魅力にとりつかれる極甘口のデザートワインです。貴腐ワインとは『高貴な腐敗』との名前の由来通り、特定の菌に葡萄が感染することで腐敗したかのように見える干しぶどう状態になった”貴腐ぶどう”を使用して造られるワインのことで、非常に糖度が高い貴腐ぶどうを使用することで最高級の甘口ワインとなります。その希少性や貴腐香とよばれる独特の香り、そして甘美な風味から「ワインの王にして王のワイン」という呼び名が使われるほどです。

ハンガリーのトカイ、ドイツのトロッケンペーレンアウスレーゼや、そしてフランスはボルドーのソーテルヌが3大産地として知られており、そこで生まれるワインを世界三大貴腐ワインと称しています。フランスボルドー地方あるソーテルヌ村のシャトー・ディケム（Château d'Yquem）は1本の葡萄の木からグラス1杯のワインしか造らないと語られ、1855年パリ万国博覧会の際、ジロンド県産白ワイン部門の格付で、これを凌ぐものはない最高級品ということで唯一「特別1級」に指定されています。

貴腐ワインの楽しみ方ですが、定番の組み合わせとしては「ブルーチーズと貴腐ワイン」です。ブルーチーズの塩分と貴腐ワインの極上の甘さが素晴らしく、少し蜂蜜を添えてもまた美味しく召し上がっていただけます。ケーキや、フルーツともとても良く合います。アイスクリームにかけたり、クレームブリュレの香ばしいキャラメリゼした部分とのマリージュもとても良いです。バレンタインのチョコレートと合わせる場合は、ドライフルーツが入ったものと特に良く合います！

ソーテルヌ村の対岸に位置するルピアク村は、対岸というだけで非常にお値打ちな貴腐ワインです！鮮やかなゴールドの色調、美しい酸とパッションフルーツのような華やかな香りに蜂蜜のような優しいニュアンス。このお値段とは思えないほどの貴腐ワインです。ぜひ、お試しください。（法人会員 サン・ヴァンサン 竹中宜人）

※「シャトー・ルピアク・ゴードイエ 2013」参考上代 サン・ヴァンサン価格 2,180 円（税抜）750ml



Chateau Loupiac
Gaudiet 2013

フランス産チーズの紹介 (4) 「ヌーシャテル」(Neufchatel)

少し前まで巷はハートでいっぱいでしたね。バレンタインの時期はチョコレートが市場で幅を利かせますが、チーズ界でもこの時期が最も出番が多いものがあります。今日ご紹介するのは、ハートの形が愛くるしい「ヌーシャテル」という白カビタイプのチーズです。

乳製品の聖地といっても過言ではない豊かな牧草地広がるノルマンディー地方の歴史あるチーズです。同じ地方の高名な白カビチーズ、「カマンベール・ド・ノルマンディー」よりもずっと前の1969年にAOC認可されました。14世紀半ばからの百年戦争の時代に、英国の兵士に恋をしたフランス人の娘さんがこのチーズをプレゼントしたという逸話があります。「女子力」高いチーズですね。純白の白カビが美しく、塩気の効いたシャープな味わいです。最近手のひらサイズのものも見かけますので、機会があればぜひ食べてみてください。

ノルマンディーはリンゴの産地でもあるので、ワインのほか、若いものはシードル、熟成がすすんだものはカルヴァドスとかと一緒にたのしむのも良いでしょう。寒い季節には、少しシナモンの効いたリンゴのコンフィチュール（ジャム）をチーズに添えて、ヴァン・ショー（ホットワイン）といいただければ、身も心も温まりオススメです。（法人会員 ビストロ ルノール 北田由佳）



Recette des « Okonomiyaki ma façon » 「創作お好み焼き」

会員の上田ひとみさんが中学生のとき料理に興味を持ち、コンテストに応募して入賞したという「創作お好み焼き」は、小麦粉不使用でグルテンフリーですので、小麦粉アレルギーのある方にもお勧めです。（編集部）

【材料】（1〜3人分）馬鈴薯 1個、蓮根約 300g、卵 1個、キャベツ 1〜2枚、（お好みで）鰹節・青のり・紅生姜・お好み焼きソース・マヨネーズ

【Ingrédients】(Pour 1-3 personnes) 1 pomme de terre, 300 g. de racines de lotus, 1 œuf, 1-2 feuilles de chou, copeaux de bonite séchée, aonori, benishôga, sauce pour okonomiyaki, mayonnaise

1) ボールに、馬鈴薯と蓮根をすり下ろし器ですりおろす。Râper la pomme de terre et les racines de lotus dans un bol.

2) 卵を入れてよく混ぜ合わせる。Y mettre l'œuf et bien mélanger.

3) 細切りキャベツを入れて混ぜる。好みに紅生姜、烏賊、海老等の具材を追加してもよい。

Ajouter les choux hachés finement et bien mélanger. Selon le goût, on peut ajouter du benishôga, du calmar, des crevettes, etc.

4) 温めておいたホットプレートに油を敷き、混ぜ合わせた具材を円形に流す。

Enduire la plaque de cuisson d'huile et y mettre la pâte en forme de rond.

5) 両面焼く。焼き上がったら、お好み焼きソース、マヨネーズ、鰹節、青のり等を、お好みでかけて召し上がれ。

Faire dorer des deux côtés. Servir selon votre goût avec de la sauce pour okonomiyaki, de la mayonnaise, des copeaux de bonite séchée et de l'aonori.



会員紹介

フランス書の愉しみ

杉谷 健治 (すぎたに けんじ)

昨年秋に入会しました。趣味を聞かれると「本」と言うことにしています。読書よりも本を買って愛でるのが趣味だからです。中学から古本屋に通い始め、大学では学校に行かず古本屋を回っておりまして。その頃の仲間といまだに毎年 4~5 回古本市で集まります。ということで「フランス書の愉しみ」とは、読むと買うの二つの愉しみのこと。定年後おぼつかないながらフランス語の本を読むのが至福の時となっています。大学では一応フランス文学を専攻していたものの、語学を馬鹿にして翻訳本ばかり読んでいました。そのツケを今一生懸命払っているところです。語学の喜びは、日本語以外で物事を考え感じることができる方法を知るといふ喜びだと思います。謎がはらりと解け、フランス人が感じるように感じられた(と思いこんだ)時の嬉しさは何とも言えません。本音を言えば翻訳の出ていない作品を自分だけが秘かに味わえるという特権的な喜び。と偉そうに書いてもほんとは誤読ばかりしている私です……。買うほうは、好きなジャンルや作家の本をできるだけ安価に昔の形で手元に置きたいというそれだけの話。異国の書物を手に取る時の肌触り、菟書とともに世界がどんどん広がっていく気分は麻薬よりも感溺的。国内の古本屋、古本市、オークションで時たま出るのや、海外のネットで購入していますが、何と言っても無上の喜びは現地の古本屋や古本市を覗くことです。地図と単眼鏡(街角の通り名や高い所の本の背を読みとるため)を手にメトロやバスを乗り継ぎながらパリの街をうろうろする愉しみ。いまは学生時代よりもフランスへの想いが熱くなっています。記憶力が悪いうえに寄る年波でフランス語も右から左へ素通りですが、しばらくはこの生活が続けられたらと願っている次第です。読書の励みにとブログを始め、7年目。子どもっぽい内容で恥ずかしい限りですが、ご興味のある方は「古本ときどき音楽」で検索してみてください。



セーヌの古本屋の前で

医療のフランス語を学ぶ

上田 ひとみ

Bonjour ! 昨年、奈良日仏協会に入会しました。英語とフランス語、文化交流、食べ歩き、料理、旅行、温泉等が好きです。看護師の仕事をしています。

数年前に近畿圏災害時翻訳・通訳ボランティアに登録しました。先日、近畿圏合同研修会があり、在日外国人の方たちと一緒に、火災時の屋内からの避難や震災実地体験等を行いました。数グループに別れて日本語話者のボランティアが外国人参加者に通訳をするという状況で、偶然、同じグループに二人フランス国籍の方が参加されていました。その時、お二人から「こういう企画があるのは、日本はとても素晴らしいと思う。ただ、フランス語の防災訓練が無いのが残念」とのお話を聞きました。

それまで私自身あまり意識していなかった「多言語防災」に、英語、スペイン語、中国語はよくみるのに、フランス語がほとんど無いことに気づきました。以来、フランス語はまだ初心者ですが、日本における防災訓練や健康管理のマニュアルをフランス語で作成できたら、との目標を持つようになりました。

今年は新しい年を迎えるにあたって、家で鏡餅を作りました。祖母が陶芸で作った花器に、庭に生えているナンテンを切って活け、玄関先に飾りました(左写真)。そして1月15日に、この御餅を小豆粥にいただきました。この一年も健康でいられそうです。



奈良日仏協会 会員主催の各種講座案内

(2017 年 2 月)

曜	時 間 帯	場 所	講 師	内 容、教科書	問 合 せ 先
月	9:45～11:45	生駒市コミュニティセンター 2 階会議室	三野博司	「学び直しのフランス語」 もう一度しっかり学びたい人向けです。ことばの仕組みや表現を学び、フランス文化の奥深い魅力を探ります。	mino.hiroshi@gmail.com (三野)
火	12:30～14:00	奈良フランスクラブ 〒630-8421 奈良市 藤原町 1028-35	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 4 中級 Conversation, expression, écrit et écoute / DAPF / Delf A2 仏検 "Echo 1" CLE International "A la page 2016" Edition Asahi	Clubfrancenara@kcn.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
火	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	仏検の準備専門的講座 毎回、仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な練習 テキスト 駿河台出版社	同上
水	10:00～11:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 入門 テキスト: "Nouveau Spirale" スピラル Hachette / Pearsons 毎回仏検 5、4 級の準備	同上
水	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 6 上級 仏検の準備専門的講座 Echo B1 (CLE International) / Vidéo DAPF-DELFF 毎回、仏検 2 級と準 1 級の準備するため様々な練習 テキスト 駿河台出版社	同上
木	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 5 上級 "Echo 2" CLE International Préparation DAPF-DELFF	同上
木	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 2 中級 "Echo 1" CLE International 毎回仏検 3 級、準 2 級の準備、DELFF A1, A2	同上
金	10:50～12:50	同上	オリヴィエ・ジャメ	フランス語 Communication 3 中級 DAPF-DELFF 会話 作文 ヒアリング 聞き取り 書き取り 仏検読書 "Echo 2" CLE International 始め Bande dessinée : Tintin Objectif Lune	同上
土	毎月 2 回 13:30～15:30 (02/25...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	Interprétation-Traduction 通訳翻訳講座 (Introduction aux techniques d'interprétation et de traduction) 仏検準一級、一級	同上
土	毎月 1 回 11:00～13:00 (NEW!) 5 月 27 日から	同上	オリヴィエ・ジャメ 浅井直子	2017 年度「漱石を日仏二か国語で読む」講座は 漱石の詠んだ「俳句」のフランス語訳に挑戦します。詳細は Mon Nara 3-4 月に掲載。	同上 0743-74-0371 (浅井)
日	2 ヶ月に 1 回 14:00～17:00 (2/12, 4/9 ...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	Mélodies de Claude Debussy A chaque séance deux ou trois mélodies de Claude Debussy sont étudiées (prononciation et traduction en japonais)	同上
日	毎月 2 回 10:30～12:30 (2/12, 26, 3/5, 19)	同上	オリヴィエ・ジャメ	会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検読書/ DELF/DALF "	同上
日	毎月 1 回 14:00～16:00 (2/26 ...)	同上	オリヴィエ・ジャメ	Séance de lecture et de discussion (Articles du Nouvel-Observateur...) 読書・討論会 (仏検、DELF/DALF)	同上
火	毎月 1 回 14:00～16:00 (2/21, 3/7)	奈良市西部公民館	浅井直子	ブルースト講読:『失われた時を求めて』から抜粋したフランス語のテキストを精読しています。 3 月は映画『スワンの恋』(1983) を鑑賞します。	Nasai206@gmail.com 0743-74-0371 (浅井)
火	毎月 1 回 14:00～16:00 (3/7)	奈良市西部公民館	浅井直子	ブルースト読書会:『失われた時を求めて』を岩波文庫版で読んでいます。読書好きな方歓迎! 3 月は映画『スワンの恋』(1983) を鑑賞します。	同上
火	毎月第 2 火曜日 13:30～15:00	京橋 studio-J	梨里香	フランス語で歌うシャンソン	studioj-nktj@occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502 (中辻)

月	毎月 2 回月曜 13:30~15:00	三宮 Mint 神戸 17F	中辻純子	フランス語を歌って学ぼう！…歌唱法やフランス語を丁寧に指導します。	studioj-nktj @occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502 (中辻)
月	毎月 2 回月曜 15:15~16:45	三宮 Mint 神戸 17F	中辻純子	ボンジュールからはじめましょう！…日常会話から文法、発音等までわかり易く指導します。	同上
木	毎月 2 回 木曜 18:30~20:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいレクチャー 中級以上の方対象 簡単な短編やニュースを講読します。	同上
金	毎月 2 回 金曜 10:30~12:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいフランス語① 日常会話からフランス語の基礎と文法を学びます。	同上
木 金	毎月第 1 木曜 13:30~15:30 第 2 金曜 9:30~11:30	学園前西部公民館	仲井秀昭	BON MOMENT 素敵な時間をボンジュールから。初心者も既修者も歓迎！日常会話、詩、映画、料理のレシピ、そしてフランス文化と生活	Bonjournara @gmail.com 070-5504-1881 (仲井)
水	毎月第 3 水曜 11:00~13:00 (3/15, 4/19)	ビストロルノール (生駒市松美台)	北田浩久	Salon Le Nord : 家庭で作りやすいようにレシピを再構築し、気負わずにできてしまうフランス料理教室。プロのちょっとしたコツも教えます。	ビストロルノール 0743-75-9555 (北田)

2017 年度 各種講座の案内

「仏検の準備的専門講座」(奈良市藤原町「奈良フランスクラブ」にて)

- 毎週火曜 19:00~20:30 毎回仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な練習をします。テキストは駿河台出版社。
- 毎週水曜 12:30~14:00 毎回仏検 2 級と準 1 級の準備するため様々な練習をします。テキストは駿河台出版社。
フランス語上級 Echo B1 (CLE International)、Vidéo 教材使用。
- 毎週木曜 19:00~20:30 毎回仏検 3 級と準 2 級の準備するため様々な練習をします。
フランス語中級 Echo 1 (CLE International)、DELFI A1, A2

「学び直しのフランス語」(毎週月曜 9:45~11:45 生駒市セイセイビル 2 階会議室にて)

そのむかしに習ったフランス語の感動をもう一度味わいたい。長年フランス語を学んでいるけれど、いまひとつ文法がよくわからない。ちょっとした会話、フランス文化、文学など、フランスに関することを少しずつ学びたい。そんな人向けの講座です。今は二つの柱を立てています。①フランス語文法参考書の超ロングセラー『新リュミエール』(森本英夫・三野博司共著)を教科書として文法の復習。②フランス語会話の書取り(dictée)とミニ会話練習。今後は、これに、③フランスのやさしい詩や物語の講読(少しだけ)を取り入れる予定です。

「プルースト読書会」(第 1 火曜 14:30~16:30 生駒市セイセイビル 2 階会議室にて)

プルーストの『失われた時を求めて』を岩波文庫の吉川一義訳で読み進めます。2017 度は第 3 篇『ゲルマントの方へ』と第 4 篇『ソドムとゴモラ』の 5 冊を読みます。参加者は毎回、予め分担した箇所を要約し、自分の感想等を述べていきます。同じ本でも読むたびに印象が変わる、それは読者自身がつねに変化しているからと、この小説の語り手は述べています。そんな読書の愉しみをぜひ一緒に味わいましょう！途中からの参加も歓迎です。☆教材：岩波文庫『失われた時を求めて』(吉川一義訳)各自で購入、毎回プリント配布。

第 1 回 6 月 6 日：『ゲルマントのほう I』	第 5 回 11 月 7 日：『ソドムとゴモラ I (前半)』
第 2 回 7 月 4 日：『ゲルマントのほう II』	第 6 回 12 月 5 日：『ソドムとゴモラ I (後半)』
第 3 回 9 月 5 日：『ゲルマントのほう III (前半)』	第 7 回 1 月 16 日：『ソドムとゴモラ II (前半)』
第 4 回 10 月 3 日：『ゲルマントの方 III (後半)』	第 8 回 2 月 6 日：『ソドムとゴモラ II (後半)』

「プルースト講読」(第 3 火曜 14:00~16:00 奈良市西部公民館にて)

フランス語の原文で *À la Recherche du temps perdu* 『失われた時を求めて』からの抜粋を読みます。昨年度に続いて、「植物」に関する描写が小説全体の主題とどのように関わっているのか、そうした描写にはどのような作品からの影響がみられるのか、考察していきたいと思います。

第 1 回 6 月 20 日「タンソンヴィルのリラ」	第 5 回 11 月 21 日「昆虫による花の受精」
第 2 回 7 月 18 日「海を背景にしたペンシルヴェニアローズ」	第 6 回 12 月 19 日「バルベックのリンゴの木々」
第 3 回 9 月 19 日「バルベックの小道で出会ったサンザシ」	第 7 回 1 月 30 日「エルスチールのバラの画」
第 4 回 10 月 17 日「ラスキンの語る葉模様の彫刻」	第 8 回 2 月 20 日 映画鑑賞

第 134 回 フランス・アラカルト「奈良県国際交流員ジャンヌ・オストリーさんを迎えて」(3/9) 案内

❖ 日時：2017 年 3 月 9 日 (木) 15:00～17:00 ❖ 会費：会員 1000 円、一般 1500 円
 ❖ 会場：生駒市コミュニティセンター (セイセイビル) 205 会議室
 ❖ 問い合わせと申込先：Nasai206@gmail.com tel: 090-8538-2300 (浅井)
 ❖ ゲスト：Jeanne Austrey ジャンヌ・オストリーさん (略歴) フランス、ヴァル・ド・マルヌ県フォンテネス・ブア市出身、2014 年上智大学留学、2015 年パリ政治学院学士卒業、パリ政治学院公共政策専攻入学、2016 年 8 月から奈良県国際課に勤務、趣味はハイキングと水泳。
 ❖ ジャンヌさんからのメッセージ：Bonjour ! Je suis ravie d'avoir l'opportunité de présenter, au cours du mois de mars, les romans de chevalerie et leur contexte à l'association franco-japonaise de Nara. Loin d'être une spécialiste, j'espère pouvoir vous proposer une introduction à cette partie de la culture française. (写真は *Le chevalier, la mort et le diable*, Duhrer, 1513)



3 月に奈良日仏協会でお話しさせていただくことになりありがたいです。騎士道や騎士の歴史に関して発表したいと思っております。専門家ではありませんが、簡単に紹介させていただければ幸いです。楽しみにしています。
 ❖ 当日は、法人会員ビストロ・ルノールのシェフの北田浩久さんがお菓子を用意してくださる予定です。

第 43 回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (2/26) 案内 ★2 月 26 日 (日) 13:30～17:00 ★奈良市西部公民館 5 階第 4 講座室

★プログラム：サッシャ・ギトリ監督『とらんぶ譚』(Le Roman d'un Tricheur, 1936 年, 78 分) ★参加費：会員無料、一般 300 円 ★問い合わせ：Nasai206@gmail.com (予約不要)
 ★サッシャ・ギトリの監督作品は制作年代は古いですが、近年フランスや日本で新たに DVD が発売されて、再評価されつつあります。トリュフォーやアサイヤスなど、後の世代の監督に影響を与えたことでも知られています。2012 年度秋の NHK ラジオ講座応用編で講師をしていた途中で急逝された梅本洋一さんが、高く評価していた監督でもあります。その時の応用編のテキストには、1916 年に初演されたサッシャ・ギトリの戯曲『夢を見ましょう』(1936 年に映画化) から、「独白」(aparté) の台詞の抜粋が使用されています。

**《2016 年度第 6 回理事会報告》**事務局

日時：2017 年 1 月 19 日 (木) 15:00～16:50
 場所：菜宴 出席：三野、野島、井田、濱、藤村、浅井、中浦、三木
 議題 1. 2016 年度の会員数確定：93 件 97 名。
 議題 2. 11/17 理事会後の活動：2016 年度秋の教養講座(11/23)、三重日仏協会「名作料理の会」(12/3)、第 133 回フランスアラカルト「ベリー地方のジョルジュ・サンド」(1/13) Mon Nara 本号にて報告。
 議題 3. 今後の行事：第 43 回シネクラブ例会『とらんぶ譚』(2/26)、第 134 回フランスアラカルト「ジャンヌ・オストリーさんを迎えて」(3/9)、2017 年度秋の教養講座(9/23) 放送大学奈良学習センターにて。議題 4. 2017 年度役員候補承認。議題 5. 年次総会(2/11) 開催に向けて審議。議題 6. Mon Nara。次回理事会 3 月 16 日 (木) 15:00～16:30

会員通信 ☒ ☒ ☒ ☒

★3 月 5 日 (日) 絹谷幸二講演会、梅田スカイビル 27F 天空美術館にて。連絡先：swkb92350@gaia.eonet.ne.jp (南城)
 ★3 月 20 日 (祝) 13:00、「音の風景」藤村久美子と仲間たちの演奏会 (入場無料・要予約)。連絡先：090-8751-6408 (藤村)
 ★3 月 26 日 (日) 13:30 奈良フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会、奈良県文化会館国際ホール、連絡先：090-5042-3659 (岩佐)
 ★4 月 12 日 (水) 夜、奈良モーツァルト会後援「村山卓洋ピアノリサイタル」京田辺にて。連絡先：090-2193-3295 (上田)



編集後記 ☆「冬の終わり」と「春の到来」を告げてくれる梅の花 (fleur de prunier)。日本には 7 世紀後半に大陸からもたらされ、万葉集には 119 首も詠まれています。☆「梅の花今盛りなり百鳥の声の恋しき春來たるらし」の歌に詠まれた春の訪れを喜ぶ気持は、現代の私たちとほとんど変わらないのではないのでしょうか。☆奈良では「月ヶ瀬梅林」(五月川の溪谷に 1 万 3 千本もの梅樹) や道真ゆかりの「菅原天満宮」(盆展には様々な品種が出品され境内には梅樹多数) が名所として知られています。☆2016 年は漱石没後百年でしたが、2017 年は漱石と子規生誕 150 年にあたります。二人が詠んだ「梅」の俳句を読んでみたところ、漱石の「死して名無き人のみ住んで梅の花」(Humble village / Sans avenir sans passé / Histoire de fleurs (Trad. Élisabeth Suetsugu) (1899)、子規の「月見ては月か瀬の梅を思ふ哉」(1897) が印象に残りました。(N. Asai)

◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
 ◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。次号は**3 月 31 日**が原稿締切日です。

Mon Nara jan-fev 2017 **1-2 月**合併号 numéro279

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴 [郵便物のみ] 発行責任者：三野博司